

山口情報芸術センター[YCAM] 特別上映会

「追悼 ピナ・バウシュ 映像で見る世界のダンス スペシャルトーク+ドキュメンタリー上映会」

トークゲスト：マティアス・シュミーゲルト（ヴッパタール舞踊団、元ゼネラル・マネージャー）

2010年4月17日(土) 13:30-16:40 終了予定 会場：スタジオC

料金：1,000円／any会員・特別割引800円（通し券のみ） ※要申込【締切：4月11日(日)】

貴重な映像とトークで知る、ピナ・バウシュの世界 パフォーミングアーツの歴史と魅力を再発見する特別企画

山口情報芸術センター[YCAM]では、舞台芸術の歴史と、映像によって語られる身体表現の魅力を紹介することを目的とし、昨年6月に急逝した世界的振付家、ピナ・バウシュの貴重なドキュメンタリー映像3作品と、ゲストによるトークを含めた特別上映会を開催します。

1970年代から現在、そして後生にまで多大な影響を与え続けるであろうピナ・バウシュ。その活動は、パフォーミングアーツの歴史、そしてダンス、演劇、美術といったジャンルを超えて世界中の人々を魅了し続けてきました。YCAMだけのオリジナル企画となる本上映会では、振付家として、一人の人間として、どんな人をも惹きつけて止まなかったピナ・バウシュの世界を、映像作品と元マネージャーによるトークを通じて、わかりやすくご紹介します。

申込方法

電話、はがき、FAX、e-mailにて、住所、氏名、電話番号、e-mailなどの連絡先を明記の上、下記までお申し込み下さい。【締切：4月11日(日)】

〒753-0075 山口市中園町7-7

TEL：083-920-6111（山口市文化振興財団チケットインフォメーション）

FAX：083-901-2216 e-mail：pina@ycam.jp

山口情報芸術センター[YCAM] ピナ・バウシュ係



ピナ・バウシュ photo: Iijima Atsushi

主催：財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市、山口市教育委員会

共催：ドイツ文化センター・大阪

企画協力：山下秋子

企画・制作：山口情報芸術センター[YCAM]



ぜひこの機会に、取材や記事掲載ご協力いただけますよう、よろしくお申し込み申し上げます。

お問い合わせ 山口情報芸術センター[YCAM] 広報担当：廣田

TEL：083-901-2222 FAX：083-901-2216 e-mail：information@ycam.jp

〒753-0075 山口県山口市中園町7-7 <http://www.ycam.jp/>

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

ピナ・バウシュ Pina Bausch

舞台芸術に革命を起こした、その存在と軌跡。

昨年、惜しまれつつ亡くなった振付家ピナ・バウシュ。1973年からヴッパタール舞踊団(ドイツ)の芸術監督を務め、それまで主流だったバレエやモダンダンスを超えた、独自の表現手法を確立しました。ダンスの身体性をもって演劇的な表現へ向かい、ダンス・演劇の枠におさまらない「タンツテアター」(Tanztheater=ダンスシアター)という言葉の世界中に知らしめました。

「私に興味があるのは、人がどう動くかではなく、何が人を動かすのか、ということ」 —ピナ・バウシュ

この言葉にもあるように、彼女はダンスの創作において、ダンサーの個人的な経験から生まれる言葉や動きを巧みに取り上げました。ダンサーたちに膨大な質問を投げかけながら、それを舞台作品へと拾い上げる作業。それによって、観る者の、不安や人から「愛されたい」という強い願望までを開示する表現を実現し、後世まで残る衝撃を与え続けました。

日本でも1986年の初上演以降、積極的に作品を発表。2008年4月には、生前最後となる来日公演をおこなっています。また近年には、映画「トーク・トゥー・ハー」(2002)の冒頭、美しくも哀しいダンスシーンに登場。日本のファッション誌の表紙を飾るなど、その姿は舞台芸術以外でも大きな話題となりました。

上映作品

「ダンスを求めて」

"Auf der Suche nach Tanz"

1991年/監督:パトリツィア・コルブード/29分/DVD

※ドイツ語音声(音声ガイドによる日本語通訳) 翻訳:桑原綾子

ピナ・バウシュの貴重な写真、代表作におけるダンスシーンの映像などを通し、その活動を総合的に紹介するドキュメンタリー。師クルト・ヨースの創設した Folkwang 学校時代とともに、ヴッパタール舞踊団の「アリア」(1979)、「コンタクトホーフ」(1978)、「春の祭典」(1975)、「青ひげ」(1977)、「カーネーション」(1982)、「ワルツ」(1982)、「パレルモ、パレルモ」(1989年)などの歴史的な作品を見ることが出来る。

「One Day Pina Bausch has asked」

1983年/監督:シャントル・アカーマン/

オリジナル58分の抜粋版/DVD

※ドイツ語音声(音声ガイドによる日本語通訳) 翻訳:桑原綾子

1983年のヴッパタール(ドイツ)、ミラノ、ベネチア(イタリア)、アヴィニョン(フランス)へのツアー中に撮影されたドキュメンタリー。今年、日本で再演予定の「私と踊って」をはじめ、ピナ・バウシュ振付の様々な作品も登場。

「ピナ・バウシュ」"Pina Bausch"

2006年/監督:アンネ・リンゼル/オリジナル43分の抜粋版/DVD

※ドイツ語音声(音声ガイドによる日本語通訳) 翻訳:山下秋子

監督の名前から、「リンゼル・フィルム」と呼ばれるドキュメンタリー。後期のピナの作品に対する、貴重な一言一言をおさめたインタビューや、ヴッパタール舞踊団のメンバーたちのピナに対する想いを知ることのできる必見の1本。

ピナ・バウシュ Pina Bausch



photo: Iijima Atsushi

1940年ドイツ西部のゾーリンゲン生まれ。

エッセンの Folkwang 学校で、「タンツテアター」の先駆者クルト・ヨース(1901-1979)に学ぶ。同校を首席で卒業し、奨学金によりニューヨークのジュリアード音楽院舞踊科に留学。メトロポリタン・オペラ・バレエ団やニュー・アメリカンバレエ団などで活動。1962年に帰国、ヨースが創設した Folkwang・ダンス・スタジオにダンサーとして戻り、1967年に初の振付作品「フラグメンテ」を発表。ヴッパタールの劇場監督アルノ・ヴェステンハーファーの求めに応じ、1973年「ヴッパタール・バレエ団」の芸術監督に就任。自ら「ヴッパタール・タンツテアター(ヴッパタール舞踊団)」と改称。

日本では、1999年に高松宮殿下記念世界文化賞、2007年に京都賞を受賞し、2008年には旭日中綬章を受章。昨年6月30日、ガンの告知を受けた5日後に68歳で死去。

<主な作品>

「春の祭典」(1975)「七つの大罪/怖がらないで」(1976)、「私と踊って」(1977)「カフェ・ミュラー」(1978)、「カーネーション」(1982)、「パレルモ パレルモ」(1989)、「炎のマズルカ」(1998)、「天地TENCHI」(2004)など。

1999年には坂本龍一のアラバ「LIFE」に出演。

同オペラに新たな音源、映像、システムを付加して、再構築した大規模なインスタレーション作品「LIFE - fluid, invisible, inaudible...」は、2007年に山口情報芸術センター[YCAM]でも展示されている。

映像中、ピナは11歳の少女の言葉をひいて、ダンスや音楽のかけがえのなさについて語っている。

YCAMオリジナル企画、スペシャルトーク+ドキュメンタリー上映会

ピナ・バウシュの名作の数々を、ドキュメンタリー映像で紹介。

元マネージャーによるトークから、彼女の魅力を再発見する。

一人の芸術家の存在からパフォーミングアーツを考察する本企画。貴重なドキュメンタリー映像では、壮大な舞台美術でも名を馳せたピナ・バウシュの名作や、彼女と舞踊団のメンバーへのインタビュー映像を見ることができます。また、16年にわたり彼女の活動を支え続けた元マネージャーのトークでは、近い人々しか知り得なかった、この偉大な芸術家の人間的な魅力を発見できることでしょう。

さらに、上映会翌日からは、関連上映として映画「そして船は行く」を無料上映。彼女の女優としての姿もご紹介します。

トークゲスト



マティアス・シュミーゲルト

(ヴッパタール舞踊団、元ゼネラル・マネージャー)

1945年南ドイツ生まれ。ミュンヘン、ウィーン、ケルン大学で演劇学、演劇史、ドイツ文学、美術史などを学んだのち、ケルン音楽大学で音楽社会学の助手を務め、1973年からミュンヘンのオットー・ファルケンベルク演劇学校講師、また、演劇教育会議代表、連邦教育・研究省芸術諮問委員会委員などを務める。1978年、「ヴッパタール舞台」の総支配人となったヘルムート・マティアゼクの個人秘書として、ピナ・バウシュのタンツテアターでツアーや契約など渉外に従事。1983年マティアゼクとともにミュンヘンの州立ゲルトナープラッツ劇場へ移り、広報・渉外担当。1989年、ピナ・バウシュが芸術監督を務めるヴッパタール舞踊団のゼネラル・マネージャーに就任。2005年に退職するまで「有限会社タンツテアター・ヴッパタール・ピナ・バウシュ」の設立など、同カンパニーの独立性を高めることに努めた。

開催概要

山口情報芸術センター[YCAM] 特別上映会

「追悼 ピナ・バウシュ

映像で見る世界のダンス スペシャルトーク+ドキュメンタリー上映会」

トークゲスト：マティアス・シュミーゲルト

日時：2010年4月17日(土) 13:30-16:40

会場：山口情報芸術センター[YCAM] スタジオC

料金：1,000円/any会員・特別割引800円(通し券のみ)

□上映会プログラム

4月17日(土) 13:30-16:40(終了予定)

13:00- 開場

13:30- 「ダンスを求めて」上映

14:05- ゲストトーク(英語・日本語通訳あり)

—休憩—

14:50- 「One Day Pina Bausch has asked」上映

—休憩—

15:50- 「ピナ・バウシュ」上映

16:40頃 終了予定

※音声ガイドによる日本語通訳あり

※上記は予定時間となります。2本目以降の上映開始時間は前後することも予想されますので、時間には余裕をもってご来場ください。

<関連上映>

2010年4月18日(日) 13:30、19日(月) 14:00

入場無料

山口市立中央図書館+YCAM共同上映

「そして船は行く」

1983年/監督：フェデリコ・フェリーニ/127分/DVD

女優としてのピナ・バウシュを観ることができる、巨匠フェデリコ・フェリーニによる幻想的な作品。亡くなったソプラノ歌手の葬儀のために、豪華客船で旅をする人々を描いた幻想的な世界には、一癖もふた癖もある芸術関係者たちが多数登場。なかでも、ピナ演じるオーストリア=ハンガリー帝国の盲目の皇女、レリニアは、異彩を放つ存在だと言える。

申込方法

電話、はがき、FAX、e-mailにて、住所、氏名、電話番号、e-mailなどの連絡先を明記の上、下記までお申し込み下さい。[締切：4月11日(日)]

〒753-0075 山口市中国町7-7

TEL：083-920-6111(山口市文化振興財団チケットインフォメーション/
10:00-19:00/火曜休館(祝日の場合は翌日))

FAX：083-901-2216 e-mail：pina@ycam.jp

山口情報芸術センター[YCAM] ピナ・バウシュ係